

# ヨコトリーツ!

横浜トリエンナーレサポーター Hama-Treats!'s フリーペーパー Yoko-Treats!  
THE SECOND SEASON Vol.07 [通巻19号]

Oct.  
2017

札幌遠足  
レポート

全国芸術祭サポーターズ  
ミーティング in ヨコハマ  
& ハマトリーツ! フェス  
特集号

Green  
light  
ワークショップ  
参加レポート

ヨコハマ  
トリエンナーレ  
2017  
島と星座と  
ガラパゴス



「ヨコトリーツ!(Yoko-Treats!)」は、「横浜トリエンナーレ」を応援し一緒に盛り上げる活動を行うサポーター「ハマトリーツ!」による手作りのフリーペーパーです。「トリーツ/Treats」には、「思わぬ喜び、とてもいいもの」という意味があります。横浜のいいもの、楽しいものをお伝えしたい! ということで名付けました。ハロウィンの決まり文句「Trick or Treat!」(「トリックオアトリート!」=お菓子をくれなきゃイタズラをするぞ!)から連想して、みんながワクワクするような情報交換の場を目指します。

ヨコハマトリエンナーレ2017「島と星座とガラパゴス」  
会期: 2017年8月4日(金)~11月5日(日) ※ 第2・4木曜日休場  
主会場: 横浜美術館/横浜赤レンガ倉庫1号館/横浜開港記念会館  
公式Webサイト: <http://www.yokohamatriennale.jp/>

## ヨコハマトリエンナーレ2017 島と星座とガラパゴス 公式カタログ販売中!



公式カタログ概要  
価格: 2,376円 (2,200円+税込)  
サイズ: B5変型 190×257×16mm  
総頁: 160頁  
発行所: 株式会社青幻舎

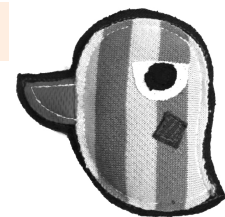
ヨコハマトリエンナーレ2017では、アーティストの数を絞り、その多くが複数作品を展示することで、小さな個展群が緩やかに星座あるいは多島海を形成するように展覧会を構成しています。

公式カタログも、個々のアーティストの創作世界に親しみつつ、関係性について考えることができるようデザインされています。また、ディレクターズのエッセイをはじめ、アーティストや構想会議メンバーのメッセージ、各プログラムも網羅し、ヨコハマトリエンナーレ2017の世界をそのまま一冊にまとめた総集編です!

横浜美術館ミュージアムショップ、SHOPトリエンナーレ2017(横浜赤レンガ倉庫1号館)のほか、Amazon、他全国書店・インターネットで発売中!

### お気に入りのヨコトリを手に入れよう!

「ヨコトリ」とは、横を向いたトリ=「ヨコトリ」をモチーフにした布製のバッジ。アーティスト・安部泰輔氏が古着を使って、一点一点手作りした「ヨコトリ」が横浜美術館ミュージアムショップ、SHOPトリエンナーレ2017(横浜赤レンガ倉庫1号館)、黄金町アートブックバザールで販売中! 会期中は特に種類豊富なので、ぜひヨコトリ2017閉幕前にお気に入りの一羽を見つけてください。



横浜トリエンナーレサポーターHama-Treats!'s フリーペーパー「ヨコトリーツ!」THE SECOND SEASON Vol.07 [通巻19号]  
●企画・編集: 横浜トリエンナーレサポーター ハマトリーツ! 情報発信G(青木邦彦/上田良寛/木村彰一/巽知代/平本晶子/横川裕隆) ●カバーアート: 車塚真子 ●発行日: 2017年10月28日 ●発行元・お問合せ: 横浜トリエンナーレサポーター事務局 [横浜市西区みなとみらい3丁目4-1 横浜美術館 横浜トリエンナーレ組織委員会事務局内 TEL: 045-228-7816 MAIL: info@yokotorisup.com] ●ハマトリーツ! (横浜トリエンナーレサポーター) 公式WEBサイト: <http://www.yokotorisup.com>

### 次号予告 ハマトリーツ! 活動をふりかえる

2017年12月  
発行予定

#### ヨコトリーツ!

### ハマトリーツ! 自主活動グループ近況報告

#### 活動支援

今月はサポーターズサロン4本立て! 「ヨコトリの広報戦略って?」「図録完成までの道のりは?」「新市庁舎にまつわるまちづくりとは?」「作品展示における空間のつくり方って?」こんな切り口でヨコトリ2017を支える色々を探りました。次に迎えるはフィナーレイベント...!? 今後の活動も要Check! (びん)

#### 時をかけるヨコハマ

9月24日(日)、案内書「横浜港を辿る」を基に横浜美術館~赤レンガ倉庫間の路上観察会を実施しました。爽やかな海風の中、遠方よりの参加者を含む往路11名、復路2名の方々に古くて新しい横浜の魅力を再発見していただき、喜んでいただけたのが大きな収穫です。案内書は横浜美術館内で配布中です。(三井)

#### 観る・学ぶ

おしゃべり会での一コマ「熊、納豆、ウンチにも見える」十人十色の感想を進行役が接続して想像を膨らませていきます。ヨコトリ検定は本格始動し、ハマトリーツ! フェスでは88名に挑戦いただきました。みどころマップはサポーターならではの視点でアート・スポットをお伝えしています。(山岸)

#### 遠足

今回の札幌への遠足の様子を、ZINE(ジン)という小冊子の形にまとめています。みんなで撮った写真をたくさん載せて、一冊のアルバムのような感じにしたいなと思っています。この号が出る頃には出来ているでしょうか?! ゆる〜く頑張ります。(北野)

#### 料理部

9月23日(土) 全国芸術祭サポーターズミーティングinヨコハマが開催され、夕方からの交流会において「研究成果」として横浜やヨコトリにちなんだ料理をご披露いたしました。その料理のレシピは現在ビジターサービスセンターにて配布中です。料理にちなんだうんちくも掲載していますのでご注目を。(星)

#### 情報発信

ヨコトリ2017も佳境に入り、今回特集の全国芸術祭サポーターズミーティングをはじめ、日夜多数のイベントが開催されています。情報発信Gも取材に編集に全力疾走中! 現在、次号特集に向けてサポーター活動に関するアンケートを実施していますので、サポーターの方はぜひご回答ください!(巽)

#### アートアクセシビリティ

9月は主に10月下旬に実施するオリジナルワークショップのコンセプトづくりや、グループ内でのトライアルをおこないました。ワークショップを通じて、いろいろな方々に、横浜トリエンナーレのコンセプトや現代アートの楽しさを伝えていけるよう、活動しています。(脇川)



遠足の1コマ

「あまちゃん」の音楽担当だった大友良英さんがゲストディレクターを務める札幌国際芸術祭(SIAF)2017の開催に合わせたレポートです。9月9日(土)のお昼過ぎ、十名のハマトリーツ! が札幌すすきのに集合、まちなかエリアに点在する作品を見てまわりました。北専プラザ佐野ビルではガイド研修に遭遇、アーティスト端聡さんによる「循環と変化」をコンセプトにした作品の解説を聞き幸運に恵まれました。夕方もう一名メンバーを加えて、SIAFオフィシャルバー「出会」にてSIAFおよびあいちトリエンナーレのボランティアの方々と交流会。夜には場所をサッポロビール園へ移し、ジンギスカンと生ビールで話が盛り上がりました。ライメンの代わりにいただいた「しめパフエ」がよい思い出に。遠足の2日目は基本自由行動で、個別行動やモエレ沼へ行くメンバーと分かれて私は札幌芸術の森エリアへ行くグループに加わりました。ZINEを見て今回の思い出を振り返るのが楽しみです。(横川ヒロ)

#### REPORT

#### THE SECOND SEASON Vol.07

### Green light—アーティストック・ワークショップ参加レポート

「接続」と「孤立」をテーマとするヨコハマトリエンナーレ2017では、アイ・ウェイウェイ《安全な通行》(2016)や、オリバー・チャナリン《本日の地中海の波向》(2017)など、難民問題を扱った作品が多い。オラファー・エリアソン《Green light—アーティストック・ワークショップ》(2016)は、さらに進んで、「孤立」した難民を支援し、社会に「接続」することを狙い込んでいる。キーワードは「we-ness」、「共生」、「包摂」。

通常このワークショップでは難民が参加し、木の棒をプラスチック製ジョイントで組み立て、内部に緑色のLEDライトが光るランプを制作する。これを組み合わせてより大きな作品にすることができる。ワークショップで制作された作品を売り、難民支援団体の活動資金にする。

今年このワークショップがヒューストン、ヴェネチア、そしてこの横浜で行われる。ただし、日本では難民をほとんど受け入れていない等の事情があり、今回は一般の参加者を募集した。

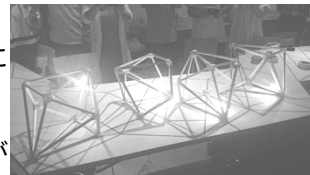
4回行われたうち、9月9日のワークショップに参加した。

前半は難民問題の今を知る理解講座で、この日のテーマは「難民が地域で暮らすということ」。単なる一方通行の講義ではなく、「自分が住む地域社会でシリアからの難民を受け入れることになった」という想定のもと、参加者同士が「我々地域住民は何をすべきか」を考えディスカッションする。「ハラル料理の入手をどうするか」など、日頃から考えていないと出てこないような意見が交わされ、議論が盛り上がった。

後半は二人一組でランプ制作。手先の器用さも要るし、二人の息もあっている必要があり、正直言って難しかった。

制作インストラクターとして参加したサポーターに伺ったところ、制作の研修は4回も行ったとのこと。一回でできないのは仕方がないかもしれない。

日本は難民問題に冷淡だが、関心を持っている人が多くいることが分かって勇気を得た。(上田)



完成した作品

遠足企画「札幌国際芸術祭2017へ行こう!」レポート

### 全国芸術祭サポーターズミーティングシンポジウム

シンポジウムのプログラムは、小林教授の基調講演(別項参照)、続いて各芸術祭サポーターの活動紹介とクロストークでした。サポーターや事務局の発表があったのは、あいちトリエンナーレ、水と土の芸術祭、瀬戸内国際芸術祭、さいたまトリエンナーレ、横浜トリエンナーレ、フェスティバル/トーキョー、札幌国際芸術祭からの全7団体です。

このうちあいちからは非公式サポーター団体が、瀬戸内からはサポーターの方が個人で登壇されました。また札幌からは、インターネットを介したビデオ通話アプリでサテライト参加していただきました。

最初の活動紹介は各団体が順番に話して行きます。団体によって、力点を置いているポイントや自主活動への向き合い方が様々で、状況や目指すところがそれぞれ違っていることが伺われました。

続いてクロストーク。3つのお題が与えられ、登壇者が順不同で答えて行きます。

最初のお題は「各団体の強み・弱み」。とりわけ自団体の強みについて、力の入った回答が続々と語られました。

2つ目のお題は「国際展とどう向き合うか」。色々な切り口の答えがありましたが、テーマやディレクターは開催ごとに変わっても、活動は変わらず続けられるように、都市や地域とどう結びつくかという点を重視する団体が多かったように思います。

最後のお題は「ネットワーク化の意味・未来性」でしたが、時間の関係から割愛となりました。

そして次回サポーターズミーティングは、水と土の芸術祭2018で開催されることが決定。ハマトリーツ! から水と土の芸術祭サポーターズに「全国芸術祭サポーターズミーティング」と刻印された特製の印鑑が贈呈されました。来年以降も次の開催地に贈り物のリレーができれば、というハマトリーツ! からの提案です。

約3時間に及んだシンポジウムでしたが、終了後は参加者同士の交流が始まり、盛況のうちに終幕となりました。(木村)

## 第3回全国芸術祭サポーターズミーティング in ヨコハマ

「全国芸術祭サポーターズミーティング」は、各地で行われる芸術祭のサポーターが一堂に会する場で、今回で3回目になります。9月23日はシンポジウムが富士通エフサスみなとみらいInnovation & Future Centerで行われました。

### 小林真理教授による基調講演

#### 「文化・市民・地域・つながる～文化政策の担い手の新しい形」

シンポジウムの冒頭に、東京大学大学院人文社会系研究科 小林真理教授による基調講演がありました。文化政策は昔は政府・官庁が行うものであったが、市民が参加するようになってきたという時代の変化を軸としたお話です。

市民が芸術に関わる関わり方には「芸術家が作り上げる作品に市民がアクセスできる」という見方と「市民が作品を作り上げる」という見方があります。前者は文化の押し付けになるきらいがあるし、後者は達成の難しさがあります。前者は文化の押し付けになるきらいがあるし、後者は難しさがあります。ボランティアに芸術の楽しみを知ってほしいと思っても、ボランティア自身は活動自体が楽しくて、そこで閉じてしまうという傾向があるのです。組織が成熟していくと新しい人が入りづらくなり、次第に年齢層が上がり、その中から活動をやめる人も出てきますから、活動は縮小してしまうの

です。我々ハマトリーツ! はまだ新規参加者が入りにくい雰囲気は出ていないと思いますが、今後も続く課題だと思いました。

ボランティアと行政との関わり方のバランスに苦労している芸術祭やプロジェクトが多い点、市民活動のあるべき姿に現時点では明確な答えは無く小林先生ご自身も模索している話など、とても興味深かったです。シェリー・アーンスタインによる市民活動のレベルを計る「市民参加のはしご」の話では、現在、ハマトリーツ! ははしごの比較的上段で活動できていることも発見でした。最上の住民主導まで行くと専門家と住民の軋轢が高まる等の問題が出てくるそうなので、今の状況はちょうどいいくらいなのかもしれません。(青木/上田)



クロストークの様子



東京大学大学院人文社会系研究科 小林真理教授

### 料理部 presents Let's ヨコハマCooking! #3

#### にんじんのベジ麺 ～横浜ナポリタン風～

実は横浜はスパゲティ・ナポリタンの発祥の地。今回は話題のベジタブルヌードルを使って糖質を大幅にカットしたナポリタンを考えてみました。



材料(にんじん1本で副菜として2人分)  
にんじん 中1本  
玉ねぎ 1/2個 (+お好みでピーマン1個)  
ベーコン 3枚  
トマトケチャップ 大さじ4  
バター 10g  
塩・こしょう

#### 作り方

1. にんじん1本の皮をむいてから、ピーラーで麺のようにスライスしていく。
2. スライスしたにんじんをさっと湯通しする。
3. 玉ねぎは薄切りにし、ベーコンは1cm幅に切る。
4. フライパンにバターを溶かし、玉ねぎ(・ピーマン)・ベーコンを炒め、スライスしたにんじんを加え、全体に火が通るまで炒める。
5. ケチャップを加え、味がなじむように混ぜながら炒め、塩・こしょうで味を整える。

### 「飲み部」のノウハウを全部注ぎ込みました!～交流会

9月23日、「全国芸術祭サポーターズミーティング」に続き開催された交流会。会場は高架下スタジオSite-D集会場。早い時間から料理部のメンバーが部長の采配の下テキパキとおもてなしの準備を進めています。次第に美味しそうな香りが…。あ、ビールサーバーも到着! やがて参加者も続々と到着して18:30に開会です。横浜トリエンナーレ事務局長・山野真悟氏の挨拶に続き「乾杯!」

遠方からのサポーターさん達も多数参加して下さり、旧交を温め合ったり自己紹介をしたり。80名を超える参加者で熱気ムンムンです。そこへ我々が料理部長はしこさんの登場。横浜産の食材をふんだんに使った美味すぎる料理(右はその一例)の紹介には割れんばかりの拍手喝采。次は翌日の「ハマトリーツ! フェス」でのイベント紹介。皆さん参加してね、と勧誘にも力が入ります。20:30、最後はサポーター満岡氏による「関東上り締め」にて無事閉会。皆さん楽しんでいただけた様子にこちらも安堵と嬉しさで一杯になりました。(三井)



交流会の1コマ

### 「時をかけるヨコハマ」グループ 路上観察会

時をかけるヨコハマグループ presents 路上観察会に参加しました! 横浜美術館を起点に赤レンガ倉庫を目指すというヨコトリ会場連結の約2kmのコース。スタート時点で5名だったはずの参加者がスタート直後に「あの路上観察会ですか?参加します!」とみるみる増えて、気がつくとも参加者11名という大盛況の観察会になったのは、きつと前夜の交流会におけるスタッフのみなさんの告知活動の賜物でしょう。途中にあるさまざまなパブリックアート、歴史的建造物や記念碑などを説明つきで鑑賞しながら、また時には触りながらの道のりは横浜在住の私でも新たな発見が数多くあり、楽しい約1時間の初秋の街歩きとなりました。(青木)



路上観察の様子

### 「観る・学ぶ」グループ おしゃべり会

おしゃべり会は、同じ作品を見た人たちが感想を語り合う会です。今回のお題はジョコ・アヴィアントの《善と悪の境界はひどく縮れている》。ホスト役の「観る・学ぶ」グループの人たちは作品の勉強をしているのですが、説明は控え、お客様の感想を聞くのに徹します。他の人の多彩な感想を聞くことができたため、作品の見方が広がりました。(上田)



皆さんの感想

### ヨコトリしゅみせん!

前回展で好評だった「サポーターズサロン」が今回「ヨコトリしゅみせん!」として復活しました。仏教の世界観の中心にある須弥山(しゅみせん)をモチーフに、普段は表に出ない「ヨコトリを支えるもの」にスポットを当てるこのシリーズ。初回は「新市庁舎、水辺に建つ」と「縁の下には守りの蛇」をテーマに実施されました。

翌9月24日は、我々ハマトリーツ! のイベント系コンテンツの集中実施日となりました。名付けて「ハマトリーツ! フェス」。情報発信Gは手分けして各イベントを取材しました。

## ハマトリーツ! フェス



ヨコトリ検定挑戦中

一本目は横浜市の創造都市政策とそれをリードするデザイン室の解説から始まり、水辺と触れ合える新市庁舎のデザインコンセプトなどが語られました。続く二本目には、作品を借りて運んで展示して、ヨコトリを形にしたコーディネーター2名が登場。ジョコ・アヴィアントの大型作品の準備中、横浜港に届いた材料の竹からゾウムシが出たのが最も苦労したことで、「何が起きてても動じない」対応

### 「観る・学ぶ」グループ ヨコトリ検定

ヨコトリ検定とは3択のクイズで、ヨコトリうんちく・出展作品・横浜史がテーマとなっています。「観る・学ぶ」グループが丸付けし、成績によりかわいい亀のスタンプがもらえます。早く答えを書いた人もいれば一問一問うなっている方も。解説を聞いて、答えの確認にまた会場を見て回りたいという方もいました。(平本)



で巻き返したのが素晴らしい。ハマトリーツ! も協力した小沢剛の「帰ってきたシリーズ」作品制作では、インドで制作した看板絵が届いたときには感動さえ覚えたとのこと。そうして我々は作品を観ることができるようですね。

新市庁舎をめぐるフィールドワークも実施されるとのこと。次回はどんなヨコトリの裏側を見せてくれるでしょう。(横川ヒロ)

### 缶バッジワークショップ

缶バッジワークショップは、緑化フェア(4号参照)の時にも実施しましたが、いつも盛り上がるイベントです。午前の部は美術館開館と同時にスタート。展示を見る前にも関わらず多くの方が参加してくださいました。特にキッズ達の喜びようが場を盛り上げ、我々にとってもご褒美といえます。お客様より我々が楽しむイベントかもしれません。(上田)

### 星占い

「島と星座とガラパゴス」の「星座」にちなみ、星占いコーナーが開設。テレビでよく見る12星座占いかと思いきや、生まれた時刻の惑星の位置から「裏の性格」まで占うという、奥深いものでした。私の7ヶ月の息子(最年少?)も占ってもらいましたが、お金にルーズだそう(汗)。参加者は「当たってる!」など歓声を上げ、盛り上がっていました。(巽)



星占いの様子